

※2021年12月に発送した中間事業報告書（ハガキ）
を掲載しております。



3090

2021年度上期のご報告

2021年4月1日～2021年9月30日

〒135-8512 東京都江東区木場1-5-1

株式会社フジクラ

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

同 連 絡 先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
0120-782-031（フリーダイヤル）

◀OPEN 濡れている場合は乾かしてからはがしてください

株主の皆様には、日頃よりご支援を賜り厚くお礼申し上げます。
ここに2021年度上期のご報告をお送りいたします。

CEO、COOから株主の皆様へのメッセージ

現在、当社は早期事業回復に向けた事業再生フェーズ下であり、重点施策「既存事業の聖域なき「選択と集中」「コーポレートガバナンスの強化」を強力に推進しています。当上期の業績は、各種施策の成果もあって、売上高は3,281億円、営業利益は186億円、最終利益は172億円の前年同期に比べ増収増益となりました。なお、誠に遺憾ながら中間配当は無配とさせていただきます。

伊藤CEO

本年4月1日付で経営体制を刷新しました。社内カンパニー制を廃止し、CEO（最高経営責任者）とCOO（最高執行責任者）が、事業を直接掌握して、迅速かつ強力に推進できる体制としました。私が構造改革を、岡田が中核事業の推進を担っています。

「構造改革」では、設備投資の大幅削減や、拠点の統廃合等のビジネス環境の変化に応じた事業体制の見直しにとどまらず、抜本的な事業構造改革を進めています。大小110を超えるアクションアイテムを挙げ、既に約9割に着手又は完了しています。CEOである私の責任において、手を緩めることなく改革を成し遂げます。
当上期中に、当社の祖業であるエネルギー事業に関わる2つの子会社を売却しました。



取締役社長CEO 伊藤雅彦

取締役COO 岡田直樹

岡田COO

COOである私は、当社の成長に向けた「中核事業の推進」を担っています。未曾有の事態であるコロナ禍は、社会のリモート化、高度デジタル化を急激に加速させました。当社は、世界有数の技術力を誇る高付加価値光ケーブルを中心とした、光配線ソリューションビジネスを、核心的領域と位置付けて経営資源を集中しています。また、エレクトロニクスの分野では、高密度FPC、コネクタその他のオリジナリティの高い製品を有しています。来るべき成長フェーズに向け、強固な事業基盤を作り上げます。

伊藤CEO

事業再生は、経営層と前線で働く社員とが一体となって臨んでこそ為し得ます。4月の経営刷新を通して、これまでの縦割りの風土の改革、全社一体感の醸成を進めてきています。この成果は業績にも表れ始めています。

岡田COO

「全社一丸」こそ、あらゆる施策の実現、早期事業再生とその先の成長フェーズへの転換を成し遂げるための原動力となります。私は、様々な取り組みを通して、経営層と前線で働く社員一人ひとりととの意識の共有、事業部門間のコミュニケーションの向上に手ごたえを感じています。

伊藤CEO

事業運営は、CEOとCOOの下「全社一丸」の体制としました。一方、取締役会は、社外取締役を半数として監督機能を強化するとともに、経営資源の最適配分や企業価値向上に向けた中長期の方針を多様な知見をもって議論できる構成としました。
早期事業再生とその先の持続的成長に向け、いっそう励んでまいります。株主の皆様には引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

2021年12月

代表取締役 取締役社長CEO 伊藤雅彦

代表取締役 取締役COO 岡田直樹

変革への「半歩前進」

事業回復の早期達成には、大きな変化を起こそうと立ち止まって考え込んでしまうより、一歩と言わず半歩でも今すぐ前へ進むことが重要です。

以下をスローガンに、社員一人ひとりが「半歩前進」を始めています。

「他責にせず、自分に今、何ができるかを考えよう！無限の可能性を信じ、挑戦しよう！」
「相互の報連相と相互に注意し合える気さくな人間関係とコミュニケーションが重要！」

Practice 1 製造事業部門月例会

中核事業を推進する岡田COOは、事業部門長である執行役員と共に、全社及び各事業部門が目指す方向について毎月ビデオ配信しています。これは中核事業に従事する社員に向けて行われ、視聴した社員がこれに質問や感想・意見等を返すことで、相互にコミュニケーションを行っています。

社員からの声

「経営陣の人物像と大切にしていることを知ることができ、会社の進む方向への理解が深まった」
「他部門の話聞くことで全社一丸となって改善を進めている意識を持つことができた」

Practice 2 新規事業創出・既存事業強化のためのアイデア公募

意欲ある若手社員が、直接経営陣に新規事業創出や既存事業強化のためのアイデアをプレゼンし、事業化できる取り組みを始めました。自分に何ができるのかを積極的に考え、それが利益につながるという実体験を通して、事業運営に携わることの高揚感や経営参画意識の向上につながることを期待しています。

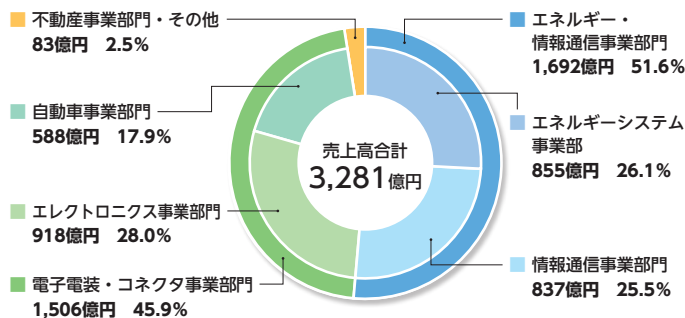
全社員への「半歩前進」の浸透が、変革への大きな原動力となり、それが新生フジクラの持続的成長を実現していきます。

2021年度上期 業績ハイライト

(単位: 億円)

	2021年度上期業績			2021年度通期業績予想		
	2020年度上期	2021年度上期	増減	2020年度(実績)	2021年度(予想)	増減
売上高	3,005	3,281	276	6,437	6,440	2
■ エネルギー・情報通信	1,472	1,692	220	3,059	3,366	307
■ 電子電装・コネクタ	1,454	1,506	52	3,218	2,907	△311
■ エレクトロニクス	955	918	△36	1,999	1,679	△320
■ 自動車	500	588	88	1,219	1,228	9
■ 不動産・その他	79	83	4	160	167	7
営業利益	89	186	97	244	300	55
■ エネルギー・情報通信	83	110	27	181	201	20
■ 電子電装・コネクタ	△19	49	68	12	50	38
■ エレクトロニクス	18	68	50	49	94	46
■ 自動車	△37	△19	18	△37	△45	△7
■ 不動産・その他	25	27	2	51	49	△3
経常利益	74	167	93	184	255	71
親会社株主に帰属する当期純利益	7	172	164	△54	150	204

各事業部門の売上高



2021年度上期の当社グループの業績の概要

売上面では、コロナ禍によるリモート社会の常態化や、いわゆる巣ごもりが継続する中で、光ケーブル及び関連製品やデジタル機器向けの電子部品が増収となりました。自動車用ワイヤハーネスは、コロナ禍による自動車メーカーの生産停止の影響が緩和しました。一方、FPCは急速な事業環境の変化に応じた受注戦略の転換により、大幅減収となりました。売上高は3,281億円（前年同期比9.2%増）となりました。

利益面では、エネルギーシステム事業部は原材料価格の高騰が続き減益となりました。一方、情報通信事業部門とエレクトロニクス事業部門が、増収や構造改革効果等により大幅な増益となったことで、全体の営業利益は186億円（同108.8%増）となりました。

以上に、子会社売却等による特別利益56億円、及び事業構造改善費用等6億円の特別損失等を加減した当上期の最終利益は、前年同期から164億円改善の172億円となりました。

中間配当につきましては、期間業績は増収増益となりましたが、財務状況及び事業再生フェーズ下にあること等に鑑みて、誠に遺憾ながら見送ることといたしました。株主の皆様には誠に申し訳なく深くお詫び申し上げます。

各事業部門の概況

*以下に記載の増減率は前年同期との比較です。

エネルギー・情報通信事業部門

売上高 1,692億円 (15.0%増) 営業利益 110億円 (33.1%増)

エネルギーシステム事業部は、建設向け需要等が低調となりましたが、原材料である銅価格が昨年来高騰していること、及び北米での電力インフラ投資向け需要が好調だったことにより、売上高は855億円(9.5%増)となりました。しかしながら、利益面では、昨年急騰した銅価格が依然高止まりしていることなどが大きな下押し圧力となりました。

情報通信事業部門は、当社の核心的領域と位置付けている光配線ソリューションビジネスにおいて、世界的な通信インフラ整備の増強やハイパースケールデータセンタの増強投資などがあって、戦略商品であるSWR®/WTC®及びこれを軸とした光機器コンポーネントや光融

着接続機等の関連製品の販売が活況となり、売上高は837億円(21.1%増)の大幅増収となりました。利益面では、市場が活況となったこと及び各種改善効果があって大幅な伸びとなりました。

*超細径高密度光ケーブル「Spider Web Ribbon®/Wrapping Tube Cable®」

エレクトロニクス事業部門

売上高 918億円 (3.8%減) 営業利益 68億円 (50億円増)

巣ごもり需要が続いたことで、パソコンやタブレット向けコネクタ、その他の電子部品が好調でした。一方、前年度に大きな減損損失を計上したFPCは、市場環境の変化に応じた事業規模の適正化、及び採算を重視した受注戦略に転換したことで、大幅な減収となりました。利益面では、FPCの事業構造改革効果及びコネクタ、医療機器向けセンサ、データセンタ等向けHDD用部品等の電子部品が好調であったことにより、大幅な増益となりました。

自動車事業部門

売上高 588億円 (17.6%増) 営業損失 19億円 (18億円改善)

前上期は、新型コロナウイルス感染症拡大により世界的に自動車メーカーの稼働が停止したことで、極めて大きな減産を余儀なくされました。当上期にはこれらの稼働が再開する一方で半導体不足の影響があり、一定程度の回復となりました。利益面では、未だ損失計上となっていますが、売上の回復及びこれまで行ってきた事業構造改革によるコスト削減効果等により改善しています。

不動産事業部門・その他

売上高 83億円 (4.4%増) 営業利益 27億円 (6.6%増)

「深川ギャザリア」の運営によるビル賃貸事業を主とした不動産事業は、概ね前年度並みとなり、安定的に収益を計上しています。

当上期の業績及び事業再生に向けた取り組みの詳細は、当社ホームページ(<https://www.fujikura.co.jp/ir/statement/presentation/index.html>)をご覧ください。